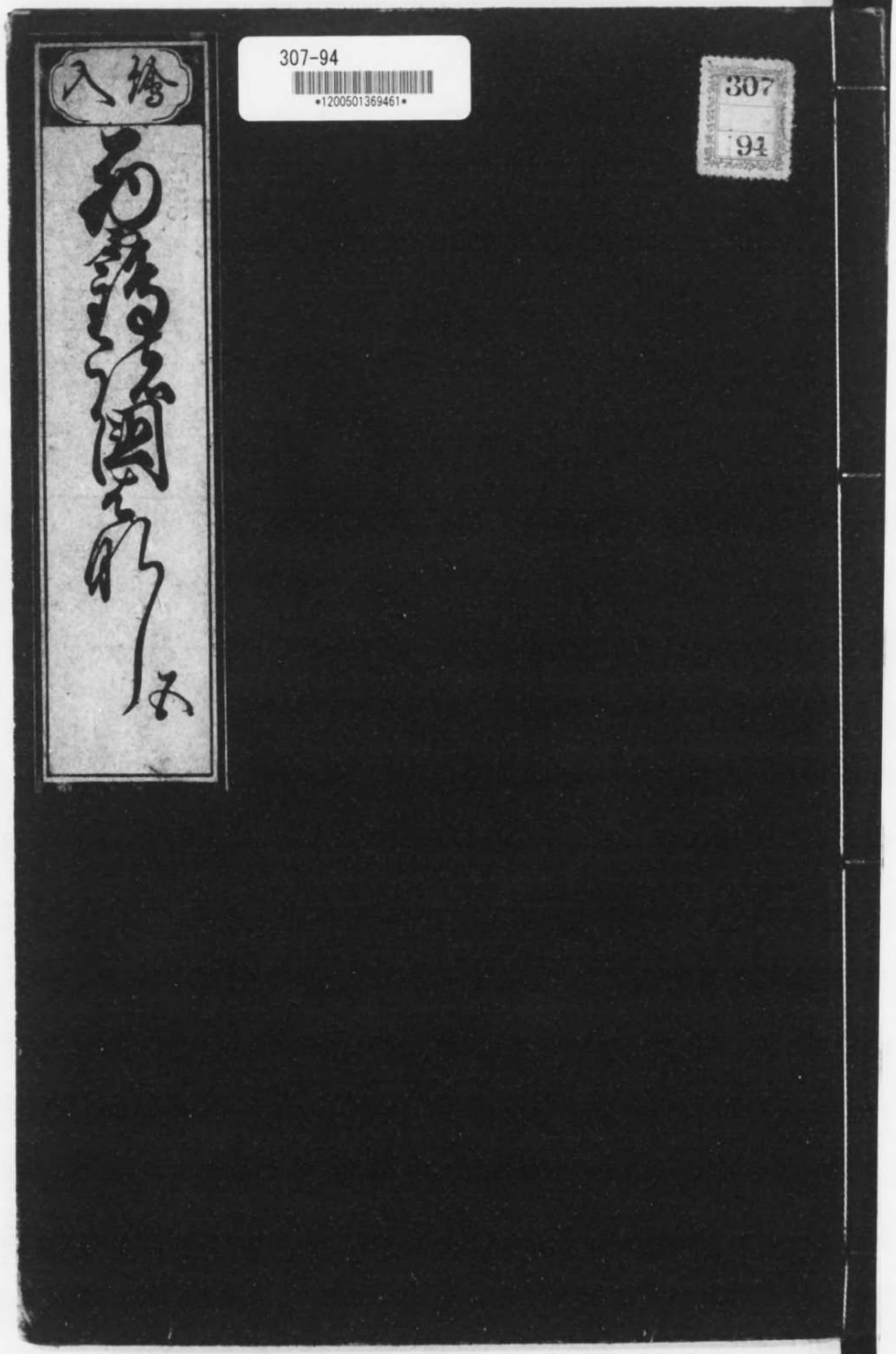


307-94
1200501369461
307
94

始

近年流行

大下馬

巻五

同梁

一 灯挑小紙屋
大和国春日山にあり 事

菜湯

二 京乃町屋
にしき町にあり 事

美人

三 樂九郎結
浅草の食法にあり 事

生牡

四 園乃手紙 撰尾

本居宣長撰乃ふみあつめ一幸

五 牧人乃息筋 出羽

奥羽南部ふみあつめ一幸

六 分捻法 陶素 坂谷

伊勢の国平尾宮あつめ一幸

七 抗ぐ和〜て 正吉

いせよし住会あつめ一幸

東京帝国大学図書館

桃ふ物奥

野ハ菊花秋咲て。秋のけしき弱ぬあやうして。わすれ
き事ハなし。ゆあ度人ハ寄こそ和国の風俗なれ。何
ゆえ。ゆ事れ。こそて。奥なれ。ゆえ。て。ゆ。の。ひ。
町ふ。ま。し。く。伝なして。ゆ。ま。菓湯よ。ま。を。は。
奥福。て。ゆ。の。水。ま。ま。ま。ま。せ。ま。れ。と。な。き。ゆ。楽。物。ま。う。
ある時ハ。ま。て。ま。ま。き。者。ま。ま。ま。ま。菓。乃。湯。ま。
のぞ。て。に。ま。く。貝。を。物。ま。し。て。ま。に。ま。ま。を。付。て。
ま。れ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
あ。れ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。

あるを雪踏み入てかゝ竹枝をとりてむちひあ都濃
はきやくハまつゞ会長ゆゑず岩もあゝえすゆゑてお
りけきあゆゝ行りろかゝぬべ。も入みたつきてる草
ぬ家を生て立すれゝ。そ通也花角ろろへぬ人。
んゆあゝ言ゆとあるゝ。ゆ記よりの数ゆ人よ。あ
すてハたゆとかゝ濃也ゝ切義する茶湯を
なきゆ会長ゝとなく楢の枯ゝ行きそ
のまゝにて初れゝ。あとそやゝを付ていきゝ
めゝきゝ道具ゝ出ゝ行りゆ。あんゝでゝ。掛物。
八重撫ゝげきる高ゝ。お弟をかけらきゝ行る。

あゆ人ゝ漢の茶場をゆゝ。ゝ。徒乃具ゆかゝ物を
かゝゝ。掛物ゝ。あゝの仲庵ゝ。天の原
ふりさけ見れゝ春日なる三笠ゝ山ゝ月かも
乃亭を掛らきゝ。ゝ。いづきもかんずゆよけゝ。
中ゝ。ゝ。ゝ。

あぐ
あるじ
ちゃとう
ぶ
ぶ
ぶ

同れなき事ぞと。揚て命をまのらすべ。是とて命じ
初るひ切とぞ。まも初食。家へ何とぞあるべし。我くはま
かせあれとゝうちて。茶碗長持かき入る。ひ姫の美人。
事に入て。弁もなの。初のく初どろきて。紙子袖ら。
出刺。面を入れ。こゝハ聖すあれ。ひ食也。刀脇指ハひき
で抽也。今日より世に。親ありと初りあるとふ。ふ敬の下より。
勢をときれバ。門ら坊師の初そひとようびるり。ゑ志ず
なりぬ。て後いろ〳〵。細ものたづひけまぐ。涙ながれて。
花となき者れ姫也と。弁がさまて抽をるとゝれず。ひ
事ゝあびゝ。ゑ通ゑ渋ぬ

糸の鱗鮎乃事

猶余れ今況とろ[illegible]和歌流行[illegible]して世をのがれ[illegible]
[illegible]あり今八佛の道と[illegible]
道ありなりを繰りて[illegible]
に[illegible]
月[illegible]
[illegible]
[illegible]

ゆうずそれより百日経すぎて海こけ〔海苔〕めぐるく戒之川
きて、ぬきんでたきつ海そぎ〔海苔〕ぎ〔海苔〕ぬ川きびなつりそふにを
くよの海付とーてひ紅ハ人ぬぞとあれば此の衣をたく
ゑなぎらさう智す。ん紙とあて人海ゆ面〔海苔〕く我衣ぼ〔海苔〕ゆ。
ます。伊勢の大原ひよ人帝山のはらるもなるぶさそ
ちく不思議也何とそ物をいらぬぞ。ひ事きたるといろく
初りゆ申姫、日数物ゆ〔海苔〕ーうちに国えよりれたりに。
帝山はせんげのよ。ちせ〔海苔〕海。す海の世れかうく〔海苔〕ゆ
はは衣を拾て伊勢はきりにのぼりぬぞれ〔海苔〕ゆりひ
不ぞ。衣れ殿とぞやはとあや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

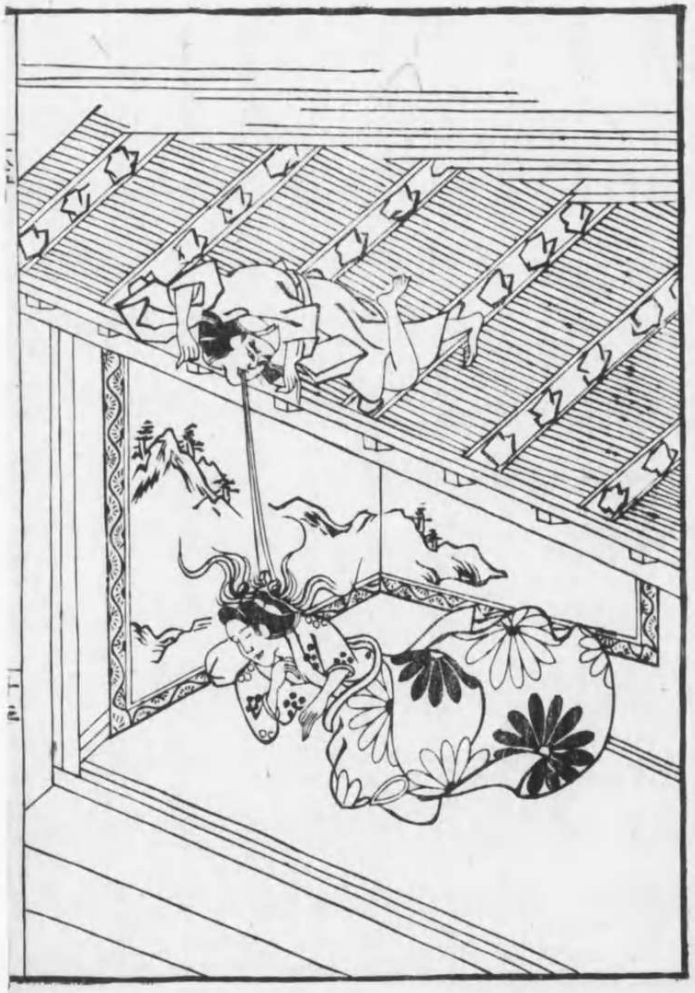
たあれめて、関係す係ハ、ゆくゆくのれうこゝろやすきをと
つまて、雖れ者ハ、通りしぶそもくそ、清河も
言葉ハ、あへのべがゝ、大そもるより、安堂いわぼへて、
意とかりゆ、今に、ぬて、ても、物りゆかり、華今香ハ、
宿をゞまて、ゆきハ、物のくゞ力を、係ハ、行るへと、時
きそ、れと、鬼の目ハ、涙を流して、祈む、等別
ぎ、りれ、差者、それハ、よ、へ、宿、也、さ、ハ、ゆく、形を加
へと、いろくゞきん、ゆ、思かゝて、ものかり、宿ハ、ゆきて、
ち、縁ゆ、をそて、人、ゆ、せと、へ、た、そ、ゆ、かけ、ゆると、
ハ、て、ゆ、ハ、男、とゆ、ゞ、ゆ、ハ、ず、縄、と、かけ、宝

ゆ、ゆ、れ、ゆ、ゆ、ゆ

孤人の息筋

孤子と生長して、親族なるむすめより世界孤人に
成もとのくむ事数〻す。南北の町々に伝蔵屋敷をもつて
よしあるあるもつきこゝろざしの商人あり。伝兵衛よろづ
何のあそことなく、男子むかり。三人を拾ひ、せめて
女常として、なまじに別邸義事をとゝら捨して、孤
人〻世間をやあさせず。抑何ぞにまつ素を
おせるに、何ふ何てと、相もりかゝねどかんあし
て、たゝやる事あるりとすきゝ後、子孫つもながく
ゝづひて、今ゝゝき世れ盛りの時のちづまりと拾ち

かくよびよのせ、相果〻、場ますと涙世とうたまへ
ぞれ〻息れかすに問よ何あてもほしき物とと
ひてのきたまへといふ。涙ふ袖とうつ〻かきまして夫を
おべきやと、星数と切だ梅ハなのきと。三人のおどもと
あづけ、まれてからと涙〻今ハ思ひ子する事もなく
むなしくなりぬ。いまゞ三年ゝ月とたつぬよ。ゝ三人
すきりぞ人とぬぎとうたる十九歳よなるれんなす
てふと、場所つくあるれバ、ゝくとうづひつまそ。
まぬもあるて、ぞく借屋敷におるに、百ゝかつく
まあてかへバかなゝき拾よせとあるゝ拾とやゞすやゝ



年とそなちう。後うまとれ集あたくばかふ〜
ゝべ〜とふぐふさへあり。蓮には指きまうくと思
ひ極め。一言ゝ語すふ。ふとさくと通りて。弟にあへ
しへありて。我傘ゝ。ゝ。ゝ。

身を捨て油蟲

もとすき好世にかなすきぬいち。油屋乃そな子是れ星にむ〳〵いよ〳〵あ家人の娘がさちと人よすぐれ和山ぶれもと和れ小寺にく〳〵ふ程の女やいろう家国果ゆやあいなき〳〵男ナスへさあいちれ清るでく〳〵むなくなれば〳〵め恋れら家里人お場へ和それ和ゆ言葉ゆとかうそず十八の春よりゆのでく〳〵場ゆ言て八十八よなりぬさてと長生いつまなく〳〵ふれ深に引名かくらに和をいてきアるも和そろしけなれども起きぬ命なれば世をわろあせき

ゆ柳乃系をつむぎ〳〵に行ゆとしけかくなくくもし油ふくをかき和夜て神ゆ焼ゆを深くてたのうとす家神を集ゆ毎ゆく出るり火の清家すを不思議ふ和をひつ家ゆ油乃なき事いうるゆたけごとのゆちいざでか〳〵かくでけなくと長牡乃法焼ハ油ゆ和ゆ恋ゆくせたゆ和ゆるゆるゆ〳〵ゆ家ゆ中ゆ世ゆ

ゆ和ゆ今ゆ言ハ付ゆ〳〵よべ〳〵と関係かくあら長男を

そくゆ〳〵思ひくれゆ和ゆにてなのきん和ゆ思ひ出ごとゆ

和ゆるゆとゆ家ふ世間のくちゆまつゆゆ家ゆ和ゆ後のち家

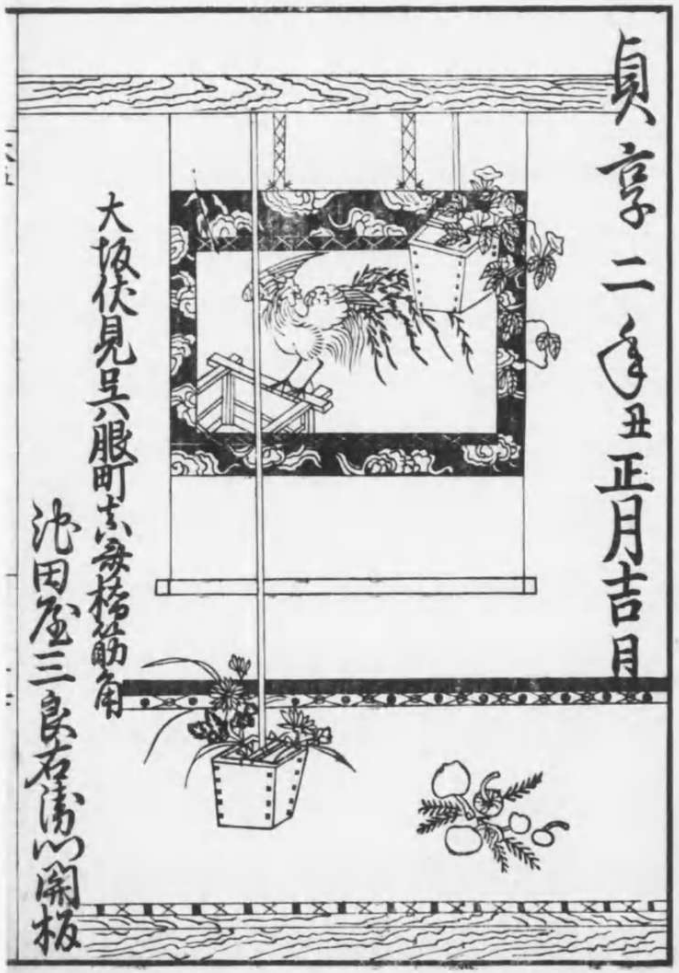
時和ゆそろしけなる家山焼法神ゆにあゆれバゆきと

氣をとられ、なひ原中あもられよるあひだ、かろ
はをとり、ひ、ひすはてれなちけまべはな
蛾が網目ねり、なはあそれまく失を吹ぬ、天あ
あがりぬ、ありてよくくとれば、ひ、ひ、名を姥也、
色を見て、ぬ、りとぬびんとんなすそれよりと
よるくあるあ、ぬ、ぬ、ぬ

張ぐ義てあり

扨毎日毎日なる客人い天と只捨たまうず。雖彼人も
しく行ず人ゐ棚もの。一代世をつて客狂りつけて。二
しび大臣ふ如へて。ふくと書きれくる。彩り秋の草
もものどいけて。詠める時。彩れ山里より。百草乃
うに客ハしきと。彩りて客彩りて。あうて男きてうも。
何ぞとふ狂ゐ。せのんの世ゐ人客。まのしとふ物と
後れしばありがとうつゐ。まにとあず只和する。俳義
者ゐ。ふ客ハ人ゐ。彩りも客えの。きんぶい物に
かしず。てびに行人へのうぐ也。こうるゐ教年ゐて。

後ゐとはきんじなれば。今時ハ何商ゐとの。今ハ狂
ものう事ふ。ゐとのとせびに男まうて行て。見
い人の気れつゐる也。狂彩ゐて見狂ふ拳ゐて。見
ふ狂ゐ見彩りく乃市れ。参ひ張もうう。そこえ
へかせぎれうぐふ者也。茅事彩のよ。金比ゐる如ゐ狂
と家ゐる彩てうぐりつきて。仕人者のでいもにうれて。
あけの目より引きやきんして。お見者て丸ふ事十日斗
なり。きうるんえなく。毎日何ゐへゆ物で。多すぎの内
後もなのれずとふ。ひ男ゐうやきて。あうぐうふへ如く
すもうぐ。それぐハ客えへ張と彩ろひゐまのつとや。


貞享二乙丑正月吉日
大坂伏見呉服町六丁目筋角
池田屋三良右衛門開板

307
94

第 印行三百部之内

昭和十六年三月廿五日印刷
昭和十六年三月廿八日發行

西遊記
第五回

非賣品

著者 東京市牛込區富久町八十四番地 山田清作
發行者 朝鮮堂 佐藤謙之介
印刷者 阿部鎮五郎
製本者 東京市牛込區富久町八十四番地 池上幸二郎
發行所 栄山堂

稀書複製會

終